

団体ヒアリングの結果について

団体名称	出された意見	課 題	市のスポーツ推進の現状への評価
龍ヶ崎市体育協会	<ul style="list-style-type: none"> 卓球連盟では、中高生に対する現在の技術講習会が物足りない内容となっているのではないかと感じており、技術レベルの高い人を招いて技術講習会を開くのがよいと考えているが、報酬の支払いなど、費用の面が課題である。また、指導者を養成していくことも課題である。 スポーツ少年団で柔道を始めた子どもが、中学校に部活がないことや部活があっても十分な指導を受けられないために、柔道をやめてしまうケースが多いようである。他のスポーツにおいてもこのような状況であるが、今後、総合型地域スポーツクラブの役割が重要になってくる。 たつのこアリーナやたつのこフィールドなど施設の予約が取りにくくなっている。中学校や高校の大会を優先して予約を入れているようだが、市のスポーツ団体を優先してほしい。 体育協会の役割として、アスリートを育てるという側面もあるが、市民の健康増進のためのスポーツ・運動の普及活動も重要である。 コミュニティセンターや学校施設など、身近な所でスポーツ・運動ができる方策を立てれば、裾野は広がるのではないか。 プールが使えない学校が多くなっており、水泳の授業でアリーナのプールを使用しているが、龍・流連携の一環として、流通経済大学のプールを使用し、学生などの指導を受けられるようにしてはどうか。また、民間のスポーツクラブのプールを活用することも検討してはどうか。 旧長戸小学校や旧北文間小学校の施設をスポーツができる場として活用してほしい。 市が管理するテニスコートには、夜間に使用できる照明設備がないが、城南スポーツ公園など、1か所くらいは照明設備を設置した方よいのではないか。 アリーナの照明のLED化を進めた方がよい。アルミの椅子が不足しているので、100脚程度購入してほしい。 マラソン大会の検討を進めてはどうか。初めは10kmやハーフなど、小さく始めてもよいのではないか。マラソンコースの選定が難しいが、牛久沼を活用できるとよい。また、ある程度にぎやかな所を通るような設定にした方がよい。実施に向けては、スポーツボランティアの育成が必要である。 現在実施している中学校駅伝大会に近隣市町村の中学校を加えるなど、徐々に大会を拡大してはどうか。その際、コースは車道にする必要がある。 体育協会が主体的に市民の生涯スポーツを推進していくためには、専従の事務局の設置など、組織体制の強化が必要である。そのためにも体育協会の法人化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■中高校生に対するより技術レベルの高い指導者の養成（費用確保・人材発掘） ■アリーナやフィールド等のスポーツ施設の予約方法の検討 ■市民の健康増進のためのスポーツ・運動の普及 ■現存施設設備活用や改善（照明や椅子等） ■閉校になった小学校の施設の有効活用（旧長戸小学校や旧北文間小学校） ■マラソン大会の実施に向けた検討 ■体育協会の組織体制の強化 	
龍ヶ崎市 スポーツ推進委員協議会	<ul style="list-style-type: none"> 体育指導委員時代に求められた実技指導主体の活動よりも、現状のスポーツ推進委員に求められるコーディネーターの役割を果たしてきたが、近年、活動の頻度が少なく、PDCAサイクルが機能していない。 年3回の会議では、十分な議論ができず、計画等が事務局任せになるきらいがある。そのため、活動自体もマンネリ化傾向にあり、毎年同様の事業を計画として挙げ、消化するだけにとどまっている。ワーキンググループや分科会を作って、検討を進めた方がよい。 イベントを実施しても参加者が少ない。広報の手段に問題があるのではないか。 総合運動公園の施設から離れた地域の住民、特に車等の交通手段がない人にとっては利用ができない。今後、地域ごとに小規模でもよいから、スポーツができる施設の設置が必要である。 以前と比べて、体育関係団体への予算が削減されている。 中学校の部活動が減っており、生徒が希望するスポーツができない状況となっている。 流通経済大学との連携により、小中学生にスポーツの指導を行ってほしい。 マラソン大会を実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ワーキンググループ等による事業の検討及びPDCAサイクルの確立 ■イベント等の情報発信の強化 ■身近な場所でスポーツができる環境づくり ■生徒が希望するスポーツ活動ができるような環境の改善 ■マラソン大会の実施に向けた検討 	<p>○体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団、流通経済大学及びスポーツ推進委員協議会の連携が取れているため、スポーツの普及活動においては、高いポテンシャルを有している。</p> <p>○以前と比べて、市のスポーツ施設は充実してきた。</p>
龍ヶ崎市 スポーツ少年団本部	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団の交流大会は同年代の子どもたちが交流できるよい機会となっているが、各団体から人員を出すのが大変であり、運営面での苦労は多い。 少子化の影響で団員が減り、休部や脱会する団体もある。 共働きの家庭が増えている影響か、親に負担が掛からないクラブチームに入っている子どもが増えており、団員の減少につながっていると思われる。団員の父兄が指導者として、団に残るような循環を作っていけるとよい。 レスリングなどの競技人口が少ない競技団体にとっては、施設の確保が課題となっている たつのこフィールドに有名なチームを呼んで試合をしてもらったらよいのではないか（サッカー、ラグビーなど）。 たつのこスタジアムでも、プロ野球の2軍の試合ができるのではないか。 たつのこアリーナのトレーニングジムを拡大してはどうか。 今後の少子化に対応していくため、スポーツ少年団については統合を図り、選手コース、エンジョイコースなどの選択肢を作っていくことも一つの方法ではないか。 若年層の人口を増やすため、若い人にとって魅力のあるまちにしていこうことを考えた方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■運営の強化（人員、団員の減少） ■競技人口が少ない競技団体の施設確保 ■若年層にとって魅力のあるまちづくり（少子化への対応） 	<p>○スポーツ少年団の大会に体育協会からメダルなどを出してもらっており、大会を継続して行うことができている。</p> <p>○以前は、体育館やグラウンドを確保することが難しかったが、現在は、スポーツ施設が充実してきたように感じている。</p>

<p>龍ヶ崎市 レクリエーション協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たつのこアリーナの予約が取りにくくなっているように感じている。抽選で外れると大会が行えない。施設の予約については、龍ヶ崎市民を優先してほしい。 ・総合運動公園での大きなイベントや大会開催時、駐車スペースが不足しているのを、改善してほしい。 ・たつのこスタジアムは、今後、大きな大会を開けるよう、内野席全てを座席があるスタンド席に改修した方がよいのではないか。 ・昨年は、市のイベントが重なっているケースが多く見受けられたので、事前に調整した方がよい。 ・稀勢の里の活躍や式秀部屋など、龍ヶ崎市と相撲との関わりを生かして、相撲に関わる事業を企画してほしい。 ・ハーフマラソンでもよいので、龍ヶ崎市でもマラソン大会を実施してほしい。 ・駅伝大会については、小学生の駅伝やコミュニティセンター単位での対抗駅伝など、拡大できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツ施設の予約方法の検討 ■スタジアムでの大きな大会開催に向けた座席の確保 ■総合運動公園でのイベントや大会時の駐車スペースの確保 ■相撲に関わる事業の検討 ■マラソン大会の実施や駅伝大会の拡大に向けた検討 	<p>○団体への補助金は、活動を行う上で大変役立っており、今後も継続してほしい。</p> <p>○総合運動公園のスポーツ施設は充実しており、評価できる。</p>
<p>流通経済大学 スポーツ健康科学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターでは、いきいきヘルス体操などをはじめとして、自発的に様々な事業が行われており、利用頻度が高いようである。また、てくてくロードの認知度も高いようである。 ・高齢者向けの市民ウォーキング講座には学生も参加しているが、ウォーキングの参加者と学生の交流が図られ、学生にとっても良い勉強になっている。 ・ボランティア学生を小中学校に派遣する際、市の支援によりタクシーが利用できるようになったので、交通手段の心配がなくなり、公平性が担保できるようになった。 ・ボランティア学生の小中学校派遣事業について、学校側の受入体制が良くなっている。事前の打合せなどによりスムーズに運営され、他の自治体に比べてもうまくいっている例だと言える。 ・小中学校の体育の授業等に学生を派遣しているが、先生方が学生に依存しすぎている面がある。あくまでも学生は、子どもたちの運動やスポーツ活動をサポートする立場にあることを再認識してほしい。 ・学生による小中学校での学習支援の機会が増えてきているが、大学と小中学校の授業時間のずれにより、学生が大学の授業を欠席して小中学校の授業に参加している。大学の授業の一環として小中学校の授業に参加している場合もあるが、ボランティアとして参加しているケースもあるので、大学の授業を休まずに済む方法を検討しなければならない。 ・学校での体育の授業が全て合同体育（学年ごとに各クラスが合同で体育の授業を行うこと。）になっており、指導が十分でないように思われる。学校の先生方が自ら学ぶ機会として、流通経済大学の教員が先生方の研修の手伝いをすることもできる。子どもたちだけでなく、教員同士の連携も図っていききたい。 ・運動部活動に対する学生のサポートに関しては、大学として学校の要望に十分に答えられていないように感じている。新たな運動部活動指導員の制度は、財源が豊かでない自治体にとっては厳しいのではないかと。国の運動部活動に関するガイドラインを参酌しながら、計画への記載を検討してほしい。 ・学童保育ルームは、教室での活動が主であると認識している。週に1～2回でもスポーツや運動をする機会を設け、子どもたちの体力向上につながればと考えており、計画への記載を検討してほしい。 ・市で行っている様々な事業については、それぞれ活動の目的がある。例えば、健康づくりに関する事業に関しては、どのくらい医療費が削減できたかなど、その効果を検証するような仕組みが必要ではないか。 ・大学の運動部で外部からの合宿を受け入れているが、市に宿泊施設が少ないため、全力で受け入れはできていない。市に宿泊施設があれば、合宿で多くの人を呼ぶことができる。スポーツツーリズムの一環として、地域の活性化にもつながれるのではないかと。 ・市内の中学、高校、大学の教員同士の連携が図られるとよい。お互いに交流を持ちながら、市の教育水準を上げていけるのではないかと。高校と大学が連携してプログラムを作り、大学の出張授業を高校で行うことも良いと考えている。その突破口として、スポーツに関する授業が適しているのではないかと。 ・小中学生が大学に来て授業を受けることも良い経験になり、相互の交流につながるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティア学生の負担軽減（教員との役割分担。大学の授業との調整） ■小・中・高・大学の教員同士の連携 ■運動部活動指導員制度の検討 ■学童保育ルームにおけるスポーツ・運動機会の確保 ■スポーツ合宿の受入拡充に向けた検討 	<p>○ボランティア学生の交通手段が確保され、公平性が担保できるようになった。</p>
<p>NPO 法人 クラブ・ドラゴンズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブに対する国からの補助金が減少する傾向にあり、資金面でクラブ運営の課題となっている。 ・当クラブの運営に当たっては、スポーツ少年団など、他のクラブの活動との調整についても配慮する必要がある。 ・今後に向けては、当クラブの自立に向けた取組が必要になっている。 ・指定管理者と市の連携がうまく取れていないように感じている。 ・スポーツイベントなどの情報が一般の市民にあまり届いていないように感じており、情報発信のあり方が課題ではないか。 ・スポーツレクリエーションまつりは、小学生の参加者がメインであるが、いろいろな世代が参加できるのではないかと。 ・昨年は、スポーツイベントも含め、市のイベントが重なっていることが多く見受けられた。また、イベント間の連携が図られていないように感じている。 ・当クラブの活動について、市民に情報を提供できる場（りゅうほーなどを設けてほしい。 ・オリンピックのキャンプ地招致を進めているが、推進するに当たっては、市民の理解が重要であり、そのための情報発信が必要ではないか。 ・市民のスポーツへの理解を高めるための情報発信が必要ではないか。（不定期でコラムをりゅうほーに掲載するなど） ・マラソンブームの中で、龍ヶ崎でもマラソン大会を開催してはという声もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自立に向けたクラブ運営（資金面、市や他団体との調整等） ■各団体との連携やイベント間の連携強化 ■クラブ活動やスポーツイベント等の情報発信のあり方の検討 ■マラソン大会の実施に向けた検討 	<p>○総合運動公園のスポーツ施設など、ハード面での充実の評価できる。</p>

<p>龍ヶ崎市社会福祉協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツ大会に関する周知が不足していると指摘されている。 ・障がい者のスポーツ大会への参加が身体障害者福祉協会や施設の所属者など、一部の人に限られており、一般の個人での参加はまれである。 ・障がい者のスポーツ大会において、突発的な発作など、参加者の体調が急変することがある。そのような事態に対処できるような備えが必要である。 ・障がい者が気軽にスポーツに参加できる環境を作ることが重要であり、障がい者スポーツの裾野を広げてほしい。 ・スポーツに興味を持っている障がい者は多い。スポーツを通じて、障がい者の社会参加、外出する楽しみにつなげてほしい。 ・障がい者が一般の人と一緒にスポーツをするなど、ノーマライゼーションの考え方もあるが、現状ではなかなか難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■障がい者スポーツ大会の周知などの情報発信の強化 ■障がい者が気軽に安心してスポーツに参加できる環境づくりや一般の人と一緒にスポーツができる環境づくり 	<p>○障がい者のスポーツ大会があることで、参加している障がい者にとっては生きがいとなっている。</p>
<p>龍ヶ崎市長寿会連合会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿連合会が主催するスポーツ大会について、ブロックごとに大会を実施するよう働きかけているが、実施する団体が3分の1程度に限られている。 ・高齢者にとっては、総合運動公園への交通手段の確保が問題となっており、大会やイベントが総合運動公園で開かれても、参加者が限られてしまう。したがって、個々の地区での活動がメインとなっている。 ・中学校では部活動が減っているが、全体として、子どもたちが運動する機会が不足しているのではないか。 ・グラウンドゴルフの大会をたつのこフィールドで実施しているが、高齢者の団体にとっては料金が大きな負担であり、減免などを検討してほしい。 ・各地区で行われている高齢者のスポーツ活動を見に行ってみてはどうか。実際に活動の状況を見たり、意見を聴くことも参考になるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者の交通手段の確保 ■高齢者に対するスポーツ活動への働きかけや情報周知 	